



2023年3月期 第3四半期決算説明

2023年2月3日

 山一電機株式会社

ご説明内容

【1】 FY2022 第3四半期業績結果

【2】 FY2022 通期連結業績予想

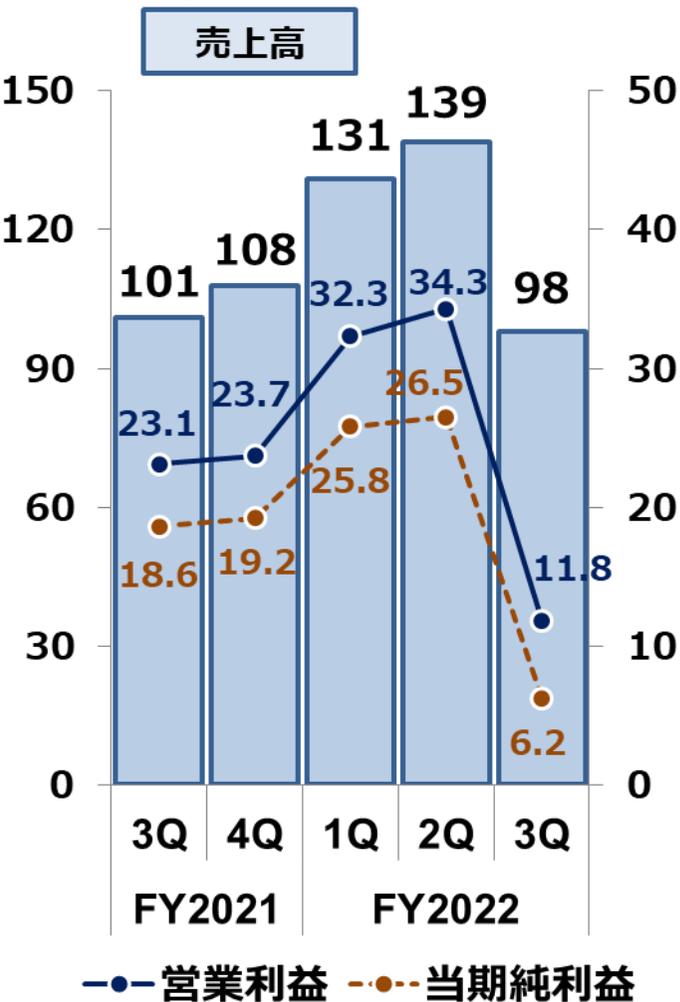
本説明資料内に記載の各事業名の略称について

事業名	事業名略称
テストソリューション事業	TS事業
コネクタソリューション事業	CS事業
光関連事業	OPT事業

【1】 FY2022 第3四半期業績結果

FY2022 第3四半期業績結果

単位：億円



単位：億円	FY2021 3Q実績	FY2022 3Q実績	前年 同期比	前年同期 増減率
売上高	287	370	83	29.1%
営業利益	59.9	78.5	18.5	31.0%
経常利益	61.6	82.8	21.2	34.4%
当期純利益	48.4	58.7	10.2	21.2%
EPS (円)	228.32	281.37	53.05	----
BPS (円)	1376.15	1705.07	328.92	----

為替レート	FY2021/3Q	FY2022/3Q	増減
USD (円)	111.10	136.52	25.42
EUR (円)	130.61	140.58	9.97

FY2022 第3四半期 事業別業績結果

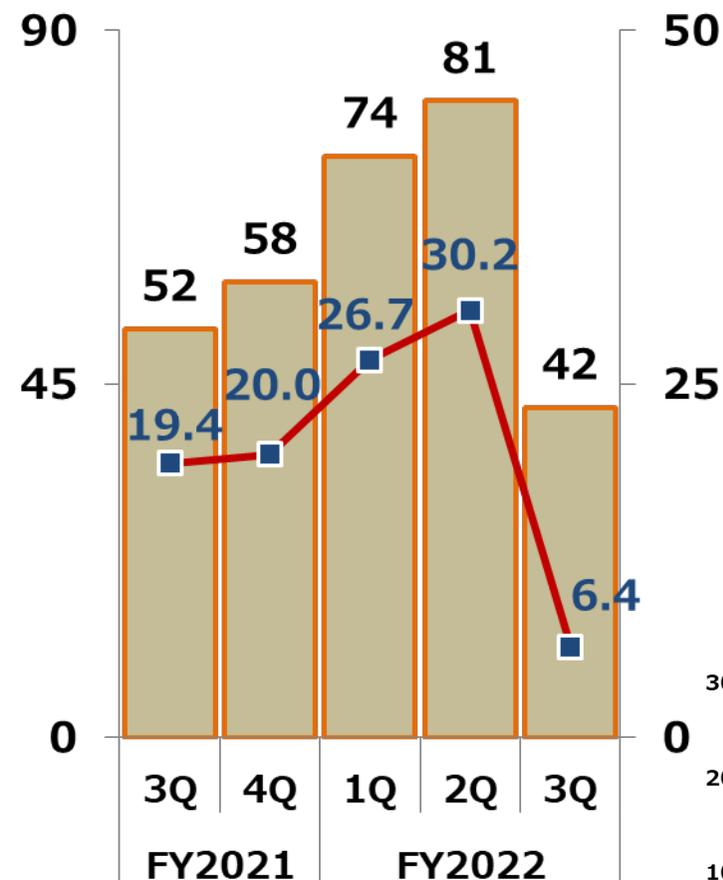
単位：億円		FY2021 3Q実績	FY2022 3Q実績	前年 同期比	前年同期 増減率
TS事業	売上高	148	198	49	33.6%
	営業利益	49.6	63.4	13.7	27.8%
CS事業	売上高	125	158	32	26.1%
	営業利益	9.5	13.2	3.7	39.4%
OPT事業	売上高	12	13	0	5.9%
	営業利益	1.8	1.5	▲ 0.3	-16.5%
その他	営業利益 (連結調整額)	▲ 1.0	0.3	1.3	----
合計	売上高	287	370	83	29.1%
	営業利益	59.9	78.5	18.5	31.0%

FY2022 第3四半期 TS事業業績結果

TS事業	前年同期比	前年同期増減率
売上高	+49億円	33.6%
営業利益	+13.7億円	27.8%

単位：億円

TS事業

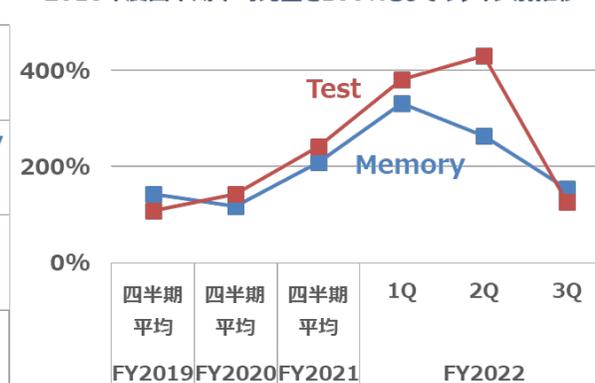


- ◆ テスト用ソケットは、自動車ならびにPC向けが順調に推移しましたが、第3四半期に入りスマートフォン向け製品にて顧客での生産調整の影響を受けた
- ◆ ロジック半導体用ソケットは車載ADAS向け製品を中心に堅調に推移
- ◆ メモリ半導体用ソケットはNAND/DRAM向け共に順調に推移しましたが、第3四半期に入り市場悪化に伴う設備投資見直しの影響を受けた

2018年度3Q累計売上を100%としての推移



2018年度四半期平均売上を100%としてのタイプ別推移



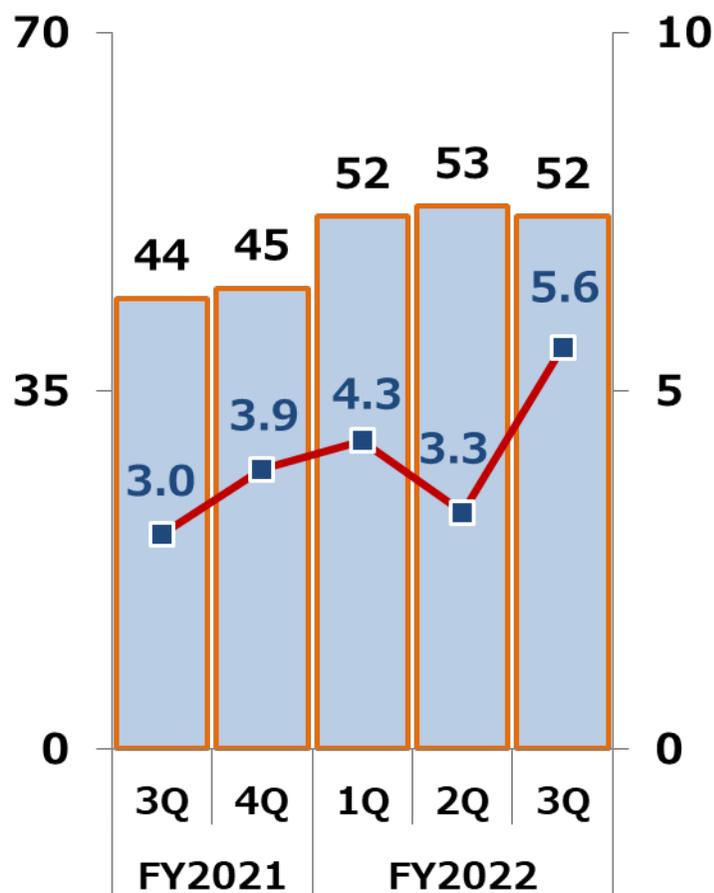
売上高 営業利益

FY2022 第3四半期 CS事業業績結果

CS事業	前年同期比	前年同期増減率
売上高	+32億円	26.1%
営業利益	+3.7億円	39.4%

単位：億円

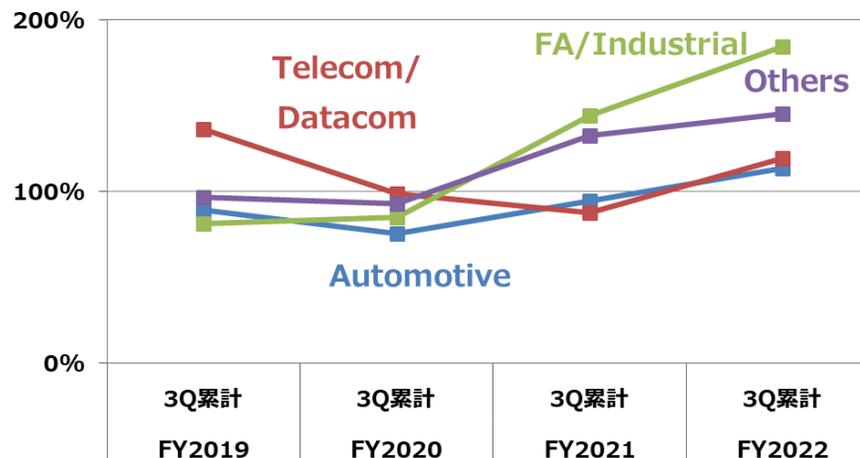
CS事業



■売上高 ■営業利益

- ◆ 産機市場向け製品は欧州にて好調が継続
- ◆ 通信市場向け製品は、米国を中心に高速大容量伝送の需要拡大で伸長
- ◆ 車載市場向け製品は半導体不足の影響は残っているものの主要顧客での生産台数増による回復基調が続いている
- ◆ 原材料費や輸送費のコストアップで経費が増加したが、生産性ならびに品質改善を行い最小限の影響に留めた

2018年度3Q累計売上を100%としての推移



為替影響

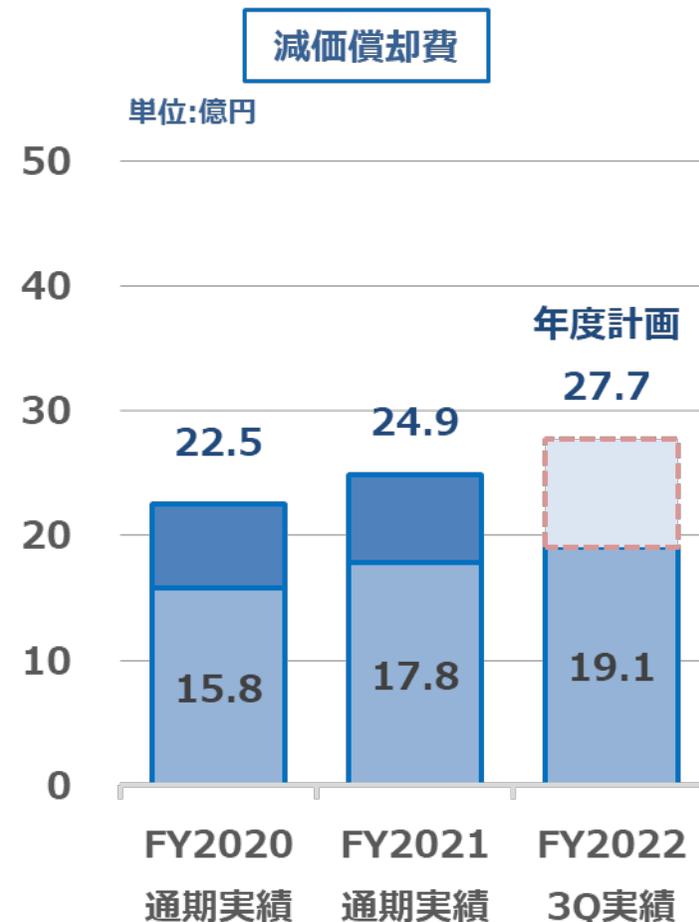
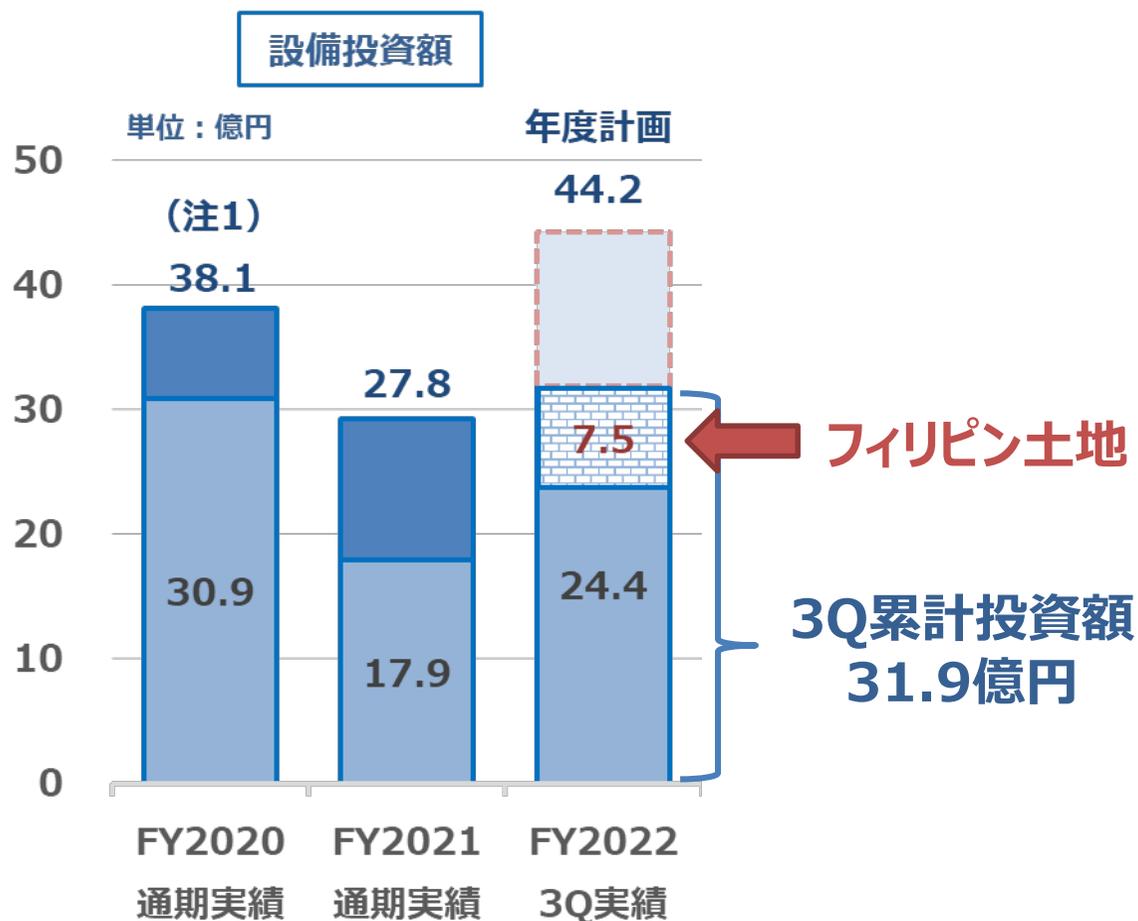
通貨	2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減
USDレート (円)	111.10	136.52	+25.42
EURレート (円)	130.61	140.58	+9.97



対前年同期為替影響額	
売上高	47.5億円
営業利益	26.6億円

通期の為替感応度 (1円影響額/年間)	売上高影響額	営業利益影響額
USD	2.1億円	1.1億円
EUR	0.8億円	0.1億円

設備投資・減価償却費



(注1) 2020年度の設備投資額はドイツ新工場移転及び、佐倉事業所ソーラー発電・蓄電システムへの投資費用 約14億円が含まれております。

設備投資 トピック

◆ フィリピンでの土地取得について

当社は、2022年9月22日開催の取締役会にて、当社の連結子会社であるPMI Holdings, Inc.が、第3工場用土地を取得することを決議し、同日に適時開示させていただきました。本件に関して、2022年11月8日に土地を取得いたしました。

ご参考：

所在地	Lots 1-2 Block 5 Elysan Road, Light Industry & Science Park IV (LISP IV), Brgy. Bulihan, Malvar, Batangas Philippines
取得土地面積	33,696㎡
取得金額	350百万フィリピン・ペソ
資金計画	自己資金

◆ 佐倉事業所 新棟建設の進行状況報告

当社は、2022年3月25日開催の取締役会にて、当社佐倉事業所敷地内に新棟建設を決議し、同日に適時開示させていただきました。本件は既に新棟建設準備を進めており、2024年4月の稼働に向け順調に進んでおります。

ご参考：

所在地	千葉県佐倉市大作1-4-1
建築面積	3,000㎡（予定）
延床面積	6,000㎡（予定）
投資総額	約15億円
資金計画	自己資金

第3 四半期 トピック

【業界初、VLCプラットフォームに対応した垂直型OSFP コネクタ「OSFP-VLC」を開発】

当社は、Nubis Communications社（本社：米国）がECOC 2022 Basel Switzerlandで発表した「Vertical Line Card（以下、VLC）」プラットフォームを実現するOSFP（Octal Small Form Factor Pluggable）の垂直型コネクタ「OSFP-VLC」を開発しました。

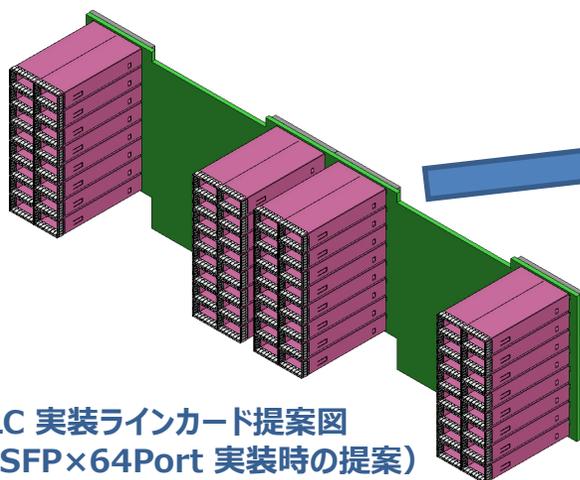
VLCは、垂直に立てたラインカード上にインターフェースコネクタとASICを併置し信号基板の配線距離を3～4インチ以内に抑えることで、高速化と高密度化を実現したまったく新しい構造となります。データセンタにおける高速化、高密度化のボトルネックになっていたASICと光トランシーバインターフェースの距離を解決出来た事、また既存の技術（モジュール、実装技術、信号伝達技術）のみを使用することで112G伝送に対応したデータセンタ内の機器を低コストで構築できます。

更に縦型ラインカードの構造上で生じるスペースと正面パネルからのエア取り込みにより、システムの冷却性能が向上し、低消費電力化を実現します。

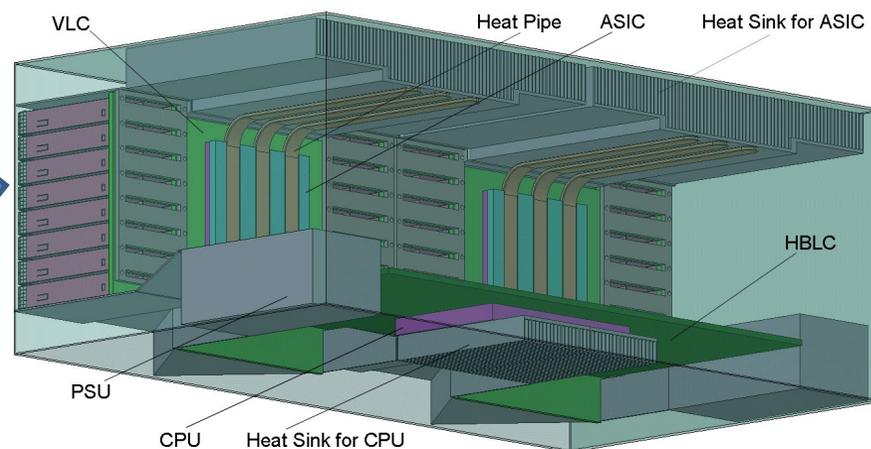
https://www.yamaichi.co.jp/news/osfp_vlc/

特長

- ASICまでの基板配線距離が短縮可能な事から伝送の高速化に対応
- 縦型にラインカードを設置する事でシステム内に余剰スペースができ、高効率な冷却構造の構築が可能
- 高効率な冷却効果による低消費電力を実現
- ケーブルレス、基板の削減によるコストダウン
- 他のインターフェースにも対応可能

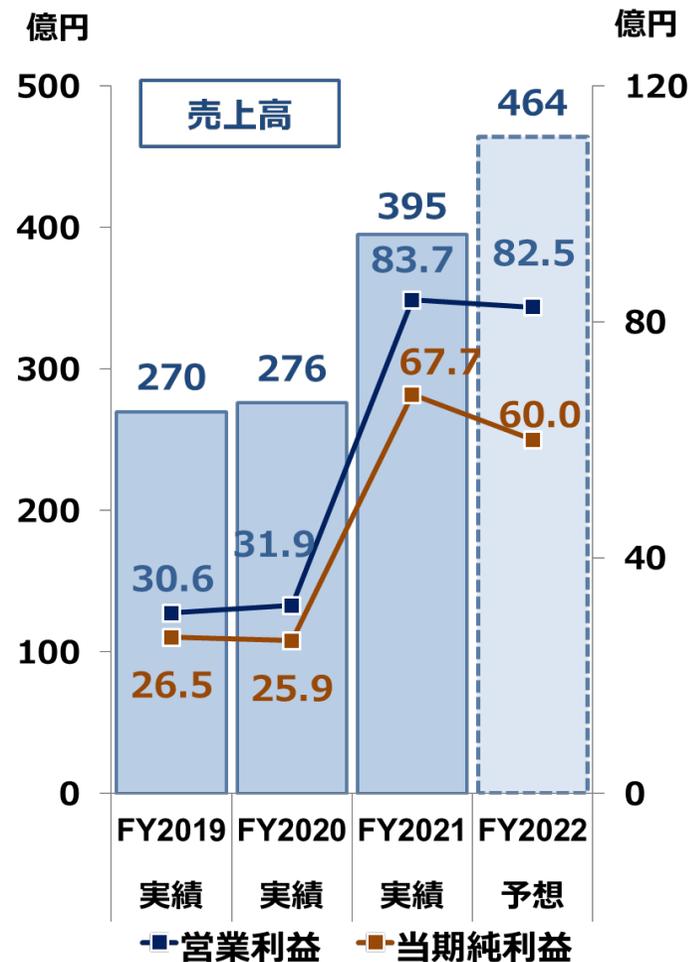


OSFP-VLC 実装ラインカード提案図
(ASIC×2 / OSFP×64Port 実装時の提案)



OSFP-VLC システム提案図
(ASIC×2 / OSFP×64Port 実装時の提案)

FY2022通期 修正連結業績予想



単位：億円	FY2021 通期	FY2022 通期				
		期初予想	11月4日 公表予想	今回予想	対前年比	前年同期 増減比
売上高	395	403	457	464	68	17.2%
営業利益	83.7	74.0	80.0	82.5	▲ 1.2	-1.5%
経常利益	87.4	74.0	86.0	86.0	▲ 1.4	-1.7%
当期純利益	67.7	54.0	60.0	60.0	▲ 7.7	-11.4%
EPS (円)	319.25	255.48	287.90	287.90	▲ 31.35	----

期末配当金につきましては、本日公表の通期業績予想にて当期純利益予想金額に変更がないため、2022年11月4日に公表いたしました金額から変更ございません。

2022年度連結業績予想の前提となる為替レート

為替レート	FY2021	FY2022	増減
USD (円)	112.37	135.00	22.63
EUR (円)	130.56	140.00	9.44

第4四半期（2023年1月1日～2023年3月31日）期間の為替レートは、**USD：¥130.00 EUR：¥140.00** としております。

FY2022通期 事業別修正連結業績予想

単位：億円		FY2021 通期実績	FY2022 通期				
			期初予想	11月4日 修正予想	通期 今回予想	前年同期比	前年同期 増減比
TS事業	売上高	206	196	240	240	33	16.0%
	営業利益	69.7	53.7	65.5	65.3	▲ 4.4	-6.3%
CS事業	売上高	170	187	200	207	36	21.1%
	営業利益	13.4	18.3	12.0	15.3	1.8	13.5%
OPT事業	売上高	17	19	17	17	▲ 0	-4.9%
	営業利益	1.7	2.0	1.5	1.6	▲ 0.1	-7.4%
その他	営業利益 (連結調整額)	▲ 1.1	0.0	1.0	0.3	1.4	----
合計	売上高	395	403	457	464	68	17.2%
	営業利益	83.7	74.0	80.0	82.5	▲ 1.2	-1.5%

FY2022通期 事業別連結業績予想

第4四半期につきまして、自動車用ロジック半導体向けは引き続き逼迫した状況にあるものの、メモリ半導体市場において、需要減による在庫が増加し、これにより価格が急落したため生産調整と設備投資の見直しがされメモリ市場は厳しい状況が予想されます。また、損益面では、エネルギー価格及び原材料費・輸送費の高騰に加え、新工場建設に関わる経費等の支出増加を見込みました。

TS事業：

- ◆ テストソケットはスマートフォン向け製品を中心に来年度モデル向け新製品の開発期間となる見込み
- ◆ メモリ半導体用ソケットはメモリ市場環境悪化もあり全体的に生産調整が続く見込み
- ◆ ロジック半導体用ソケットは車載ADAS向けを中心に堅調な見込み

CS事業：

- ◆ 産機市場向け製品は堅調に推移する見込み
- ◆ 車載市場向け製品は半導体不足に伴う減産調整が徐々に緩和され堅調に推移する見込み
- ◆ 通信市場向けは米国向けを中心に高速大容量伝送の需要拡大で一時的な調整はあるものの堅調に推移する見込み



ご清聴ありがとうございました

(期末決算発表日 2023年5月12日(金) 15:00予定)

※注意事項

本資料は、2023年2月3日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更する場合があります。

問合せ先：経営管理部広報課 古畑 利之

TEL：03-3734-7661 FAX: 03-3734-0120

<http://www.yamaichi.co.jp>

E-mail: furuhata@yamaichi.co.jp